

# 今後の検討の進め方（案）について

# 防災気象情報関連の各種検討会について

## 防災気象情報の伝え方に関する検討会

平成30年7月豪雨を契機としているため、次期出水期へ向けた対応についての議論が多いが、中長期的な観点での議論の必要性について提言されている

気象庁・水局が共同で事務局

平成30年～（継続して各年の出水期を振り返る場として活用）

大雨が予想された場合に危機感が住民や社会に確実に伝わり、避難等の防災行動につながっていくためには、関係機関との緊密な連携の下、防災気象情報の伝え方についてさらなる改善方策を検討する必要があることから、学識者に加え、報道関係者、自治体関係者、関係省庁により開催

## 防災気象情報の改善に関する検討会

防災気象情報のレベル化など中長期的な視点での議論

事務局は気象庁

（水局は防災課長が委員として参画）

平成24年～（平成25年9月を最後に開催していない）

気象庁の防災気象情報が地方公共団体の防災活動や国民の防災行動により一層有効に活用されるよう、防災気象情報のあり方と改善の方向性について検討を行うため、学識経験者、地方自治体、報道機関等から構成して開催

## 防災気象情報に関する検討会（仮）

気象庁の情報だけでなく、水局も含めた国交省全体の防災情報を議論する場とすることも一案

気象庁・水局が共同で事務局

整理・統合

令和3年～

防災気象情報をより活用しやすく、「伝わる」情報とするために、情報体系や個別の情報について、中長期的な視点で改善の方向性について議論するとともに、直近の災害対応の振り返りも踏まえ、今後の方向性について検討する場として定常的に開催